

霧島市の経済動向調査

各種景気動向調査結果の収集及び分析

【対象期間：平成28年7～9月期】

— 報告書 —

株式会社九州経済研究所

平成28年11月

景気動向（平成 28 年 7 月 1 日～9 月 30 日）

1. 全国

平成 28 年第 3 四半期（7 月～9 月）のわが国の景気動向は、熊本地震やイギリスの EU 離脱問題の影響が徐々に落ち着き悪化傾向が一服、また人手不足や天候不順による悪影響があったものの公共工事や住宅投資の増加などで建設業を中心に上向きとなり持ち直しの動きが見られました。

企業の景気動向について規模別に見ますと、大企業におきましては製造業で自動車、木材・木製品、非製造業で個人サービス、住宅関連の建設業を中心に回復の動きが見られました。中小企業におきましては製造業で飲料品や化学工業、プラスチック製品、業務用機械等がプラス水準となり、窯業・土石、非鉄金属などでマイナス幅が縮小しました。非製造業は、卸売業、小売業がマイナス幅を縮小したほか、情報通信業等が上昇しました。小規模企業におきましては製造業、非製造業ともに、マイナス幅を縮小しました。非製造業を構成する大分類業種のうち、卸売業、サービス業、情報通信業を除く全ての業種でマイナス幅が縮小しました。

（参考：TDB 景気動向調査（全国）（株式会社帝国データバンク）、全国企業短期経済観測調査（日本銀行調査統計局）、全国中小企業動向調査結果（株式会社日本政策金融公庫））

2. 鹿児島県

県内におきましては、雇用関連は堅調に推移し、熊本地震後の「九州ふっこう割」の効果などにより観光関連の産業において持ち直しの動きが見られました。また、投資関連と消費関連にやや持ち直しの動きがみられたものの、生産活動で弱含みの動きが見られ、全体としては弱い動きが続きました。

このような経済環境の中、鹿児島県の景気動向一致指数は、7 月は 87.5%と 3 カ月連続で 50%を上回りました。8 月は 75.0%と 4 カ月連続で 50%を上回りました。

県内主要企業を対象とする業況 D.I.^{注1}は▲11 となり、前期（▲18）から改善しました。

業況 D.I.を業種別で見ますと、建設業（同▲4→6）は大幅に改善しプラス圏に上がったほか、その他産業（同▲28→▲5）、製造業（同▲25→▲19）もマイナス圏ながら改善しました。一方、卸売業（同▲5→▲9）はやや悪化し、小売業（同▲17→▲31）は大幅に悪化しました。熊本地震の影響が和らぎ、「九州ふっこう割」で観光客が回復基調にあることを背景に、旅館・ホテル（前期▲81→今期 23）、観光バスやタクシー等の運輸・通信（同▲30→17）は大幅に改善しプラス圏に浮上、外食（同▲60→▲16）も依然マイナス圏ながら大きく改善しました。また、公共工事の増加などにより土木業（同▲23→11）や窯業・土石業（同▲33→13）、その他建設業（同▲15→28）も改善幅が大きく、車載用電子部品などの受注が堅調な電機・電子部品製造業（同▲64→▲34）もマイナス圏内でしたが、大幅に改善しました。一方、競争激化に加え、猛暑による来店客減などの影響がみられた百貨店・スーパー（同▲10→▲45）や、建築業（同 8→▲19）は大幅に悪化しました。

一方、県内中小企業を対象とする業況 D.I.^{注2}は、製造業▲11.9（同 2.7 割改善）、建設業▲9.7（同 2.8 割改善）、小売業▲17.7（同 20.1 割改善）、サービス業▲24.3（同 18.8 割悪化）となりました。前年同期と比較して、業況は小売業で改善、製造業・建設業は、ほぼ前年並み、サービス業では悪化の方向に進んでいます。

（参考：注.1 第 145 回県内企業・業況調査結果（九州経済研究所）、鹿児島県景気動向指数（鹿児島県企画部統計課）、注.2 中小企業業況調査報告書（鹿児島県商工会連合会））

3. 霧島市

霧島地区におきましては、熊本地震後の「九州ふっこう割」の効果などにより観光関連の産業において持ち直しの動きが見られたものの全体としては弱い動きが続きました。

霧島市中小零細企業を対象としたアンケート調査^{注.3}結果によると、一年前と比較した売り上げ等の状況についてみると、売上高は「増加」が27.5%、「変わらない」が29.9%、「減少」が42.6%と4割以上の企業で減少しました。販売受注量は「増加」が25%、「変わらない」が36.3%、「減少」が38.7%と4割近くが減少しました。販売・受注単価は「増加」が17.5%、「変わらない」が50.7%、「減少」が31.8%と約半分が変わらないと回答しました。

一方、収益の状況についてみると、直近の収益は「黒字」が37.6%、「収支トントン」が37.8%、「赤字」が24.6%となり「収支トントン」が最多となりました。今後の収益は「黒字」が28.9%、「収支トントン」が52.5%、「赤字」が18.5%となり、約半数が「収支トントン」と回答しました。

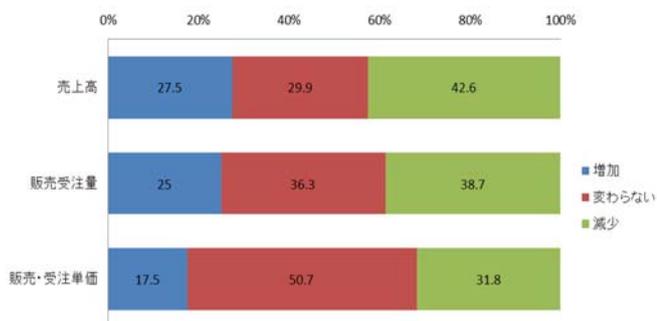
霧島市商工会エリア内の企業を対象とする業況 D.I.^{注.4}につきましては、今期▲2、来期（10～12月）▲2となり、横ばいとなる見通しです。

（参考：注.3 霧島市中小零細企業の実態に関するアンケート 2016.9（株）価値総合研究所）、注.4 第145回県内企業・業況調査結果より霧島商工会エリアを抽出したデータより（九州経済研究所）

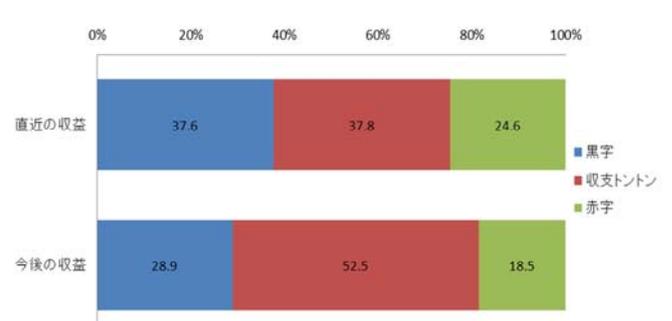
（D.I.=「良い」－「悪い」、「増加」－「減少」、いずれも回答企業割合）

以上

図表1 1年前と比較した売り上げの状況

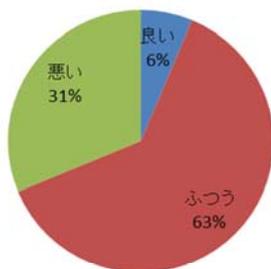


図表2 収益の状況

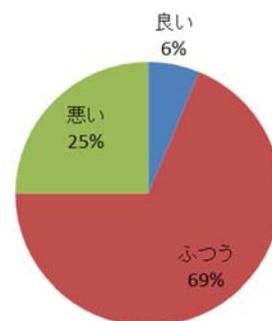


資料) (株)価値総合研究所「霧島市中小零細企業の実態に関するアンケート2016.9」(図表1、2)

図表3 業況(7月～9月)



図表4 業況(10月～12月)



資料) 九州経済研究所「第145回県内企業・業況調査結果」より霧島市商工会エリアの企業を抽出し作成(図表3、4)